

皆さんのお祈り、ありがとうございます。

無事ネパールに着きました。

カトマンズからの報告です。(第一報、4月29日、水曜日)

1. 昨日の出来事。

27日夜羽田発シンガポール航空MI412便搭乗。28日朝シンガポールで、シルクエアに乗り換え現地時間午後2時過ぎ無事カトマンズ空港着。飛行機の搭乗率は4割程度。TBS3名、国境なき医師団2名、後数名の日本人を見る。外国人に交じり、十名程度の家族を心配して帰国するネパール人に会う。カトマンズ飛行場混雑とのこと、上空で1時間旋回待機。雨の中の到着。飛行場は出国を待つ人たちで混雑している様子が見える。飛行場の建物、外からは損害はないように見える。なかで一部通路、壁などに亀裂が確認できた。入国側は人もまばらで、スムーズに流れる。荷物もいつもより早く出る。出口近くで一昨日日本をたった救援隊の一行に出会う。昨日、飛行場混雑で到着できず一日遅れになったようだ。出口外側でJICA

清水所長、職員、大使館職員が忙しく対応している。わたくしは懇意にしている旅行会社NEXのラジュ社長の出迎えを受け、その車で雪崩で負傷し入院している札幌出身の小畑ともこさんを病院に見舞う。両下腿骨折とのことでICUにおられた。全身状態は良好で、安心。医師の話ではもう数日様子を見て帰国も可能ではとのこと。たまたま大使館医務官山形先生も見舞いに来られ、先生の車で大使館へ。情報を伺い、今後の日本人医療従事者の受け入れなどについて意見交換する。途中、徳洲会救援チームの4人と大使館出合い、彼らはバクタプールの岩村記念病院で、これから本体到着し3、4週の救援活動を考えているようだが、情報、意見交換をする。その後、雪崩で亡くなられた日本人が安置されているトリブバン大学病院霊安室◆!

◆医務官、領事部の人と尋ね、日本への搬送までの処遇についてお願いをする。大使館に戻り、さらに今後の対応について意見交換。

大使館を出て、マンバワンの我が借家へ。大家さんが額に落ちてきたもので少し挫傷したが元気。後の人的被害なし。物的被害は屋上のタンクが倒れ、水が出ない。頼んでいる人がいないとのこと。後は電機、インターネット、水問題無いようで明日からこちらで生活することにする。3月中旬から研修中の自治医大の学生も元気、食事は大家さん宅でしているとのこと。我が家の2、3階2、3の本棚は倒れたがあとは問題なし。それも南北に設置された棚だけが倒れていた。その後パタン病院を訪ねる。被害を受けた方を受け入れるため、テントが3棟ばかり設置され、受付もあり。救急室も見て回る。普段より病人が少ない。6時過ぎ、ラジュ社長宅へ。テレビ等から情報を集め、明日の計画を練る。9時前、床へ。(ラジュ社長宅泊り)

2. 昨日28日の印象。

マグニチュード 7.9、日本で見えていた報道、などで予想したより、インフラははるかに保たれている。カトマンズ飛行場が使える。カトマンズの市内の道路ほぼ問題なし。家屋も大通りを車で通り観察した限りでは 95-98%倒壊をまぬかれている。倒れたのは寺院などの古い建物と、主に外壁など。

車が通っている。公共バスも動いている。人は普段の 2、3 割。商店は 9 割以上閉まっている。ただ空いている食料品店などの棚にはかなりのものがある。買い占めはないようだ。インドからの道路も確保されているのか、ガソリンスタンドに並ぶ車もそれほどではない。公園、空き地などにテントは張られているが、人はまばら。余震は 27 日はあったようだが、28 日はなし、私が到着してからは体感する余震なし。

日本からの救援を受ける、ネパール側の受け皿がまだはっきりしない。大使館、JICA、NGO などすべてをまとめて ALL Japan ですするというのは難しそう。昨日までの情報では UN のもとに一

本化してネパールへの救援を行う。

カトマンズ市内の医療機関は人は足りているようだ。市外、郡部が大変と聞く。

3. 検討課題。

日本からの救援、ヒト、モノ、お金をどのように受け、どのように配置し、どのように使っていただくのが、来られる方、ささげてくださる方のお気持ちを生かす、また困窮しているネパールの方々に喜んでいただけるのか。

医療活動は、既存の病院で手伝うという形ですか、自分たちで仮設診療所などを立ち上げてするのか、その場合、単独か、協同でか。

救援に入ってこられた方々の日々の情報交換をどうするか。

4. 29 日の予定。

車を 1 日借り上げ HDCS, JICA, アナンダバン病院、その他出来るだけカトマンズ市内の施設を見て、人に会い、情報を集め、意見を聞き、今後日本から救援に来られる方々にどこで、どのように働いていただくか検討する。